

第10回 BELCA賞ベストリフォーム部門表彰物件

宇目町役場庁舎

所在地：大分県南海部郡宇目町大字千束1075

用途：町役場庁舎（改修後）
林業研修施設（改修前）

竣工：1975年

改修：1999年

所有者：宇目町

改修設計者：株式会社 青木茂建築工房

改修施工者：梅林建設株式会社



宇目町役場庁舎は、大分県の南部、宮崎県との県境に接する山間にある。

従前の施設は1975年に建設された林業研修センターで、研修、宿泊、結婚式、成人式などに使われていたが、過疎化（昭和30年代約1万人現在4,000人）や競合施設も出来、利用状況が極度に低下していた。現町長の選挙公約によってこの施設を庁舎に再利用することになり、コンペにより設計者が選ばれた。

工事種別としては増改築であるが、いわばスケルトン／インフィルで旧施設のスケルトンだけを残して他は撤去し、町民の集う空間の増築を含めて従前の施設を完全に変えるインフィルを行っている。設計者が「リファイン（という手法）」と呼ぶように、洗練されイメージを一新して新築と見まがうものに見事に再生している。それと同時に、以前の施設を知る人にとっては、「ここは昔何の部屋だったか」を思い巡らす、絵解きのような楽しみもあるという。耐震補強により構造体の安全性を向上した上で、効果的にヴォイド空間を挿入し、それを囲んで周囲に諸室を配置して明快なプランニングを行いながら庁舎の機能性を優れたものに行っている。ガラスを随所に採用し、それによって生まれる透明性と開放性を重視し、周囲の豊かな自然と呼吸させ、また、トップライトと換気窓を効果的にとることとともに、室内空間の快適性を高めている。

写真で見たとき、筒型の増築部分の形がランドマーク性を狙い過ぎて、他の部分の形態と異質なのではないかという懸念を各委員が持っていたが、実物に接すると写真で見たときの印象よりは格段に良いという評価を得た。陰性な施設から陽性で親しまれる施設へと変貌させ、サステナブルの一つの手法として、スクラップ&ビルドを排し、48万円／坪という低コストで資源の有効活用と循環利用を図っている。建物をより強固にしながら、「プログラム変更」によって機能、形態、空間、材料のメタモルフォーゼを成し遂げて価値を高め、より良いストックをつくり上げるリノベーションの好例である。

建築設備に関して、設備機器はほとんど更新されているが、照明器具や空調機の一部は再使用されており、しかも新旧の器具が目立たないように施工が工夫されている。また、消防法では規制外にあたる誘導灯なども、利用者の安全を最優先して設置していることなども評価できる。全体的にはむだが無くコンパクトにまとめられ、その中に遊び心を取り入れた設計・施工になっているのが大変おもしろい。